一般演題（1B9-5）

外傷性遷延性意識障害患者の体組成の経時的変化と意識障害スコアとの関係

梶谷　伸顕[1]、西郷　典子[2]、水元　志奈子[2]、渡邉　幸恵[2]、横山　知幸[2]、川本　佑美[3]、草野　こず恵[4]、高橋　陽平[5]、本多　和成[6]

[1]独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 外科、
[2]独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 看護部、
[3]独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 栄養部、
[4]独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 薬剤部、
[5]独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター 臨床検査部、
[6]独立行政法人 自動車事故対策機構 岡山療護センター リハビリ

【はじめに】外傷性遷延性意識障害患者の体組成は、時間と共に筋肉量減少、脂肪組織の増量を認め、これらは活動量、運動量、意識障害スコアと関連することを我々は報告してきた。
【目的】今回受傷後からの体組成変化と入院時からの意識障害スコア（NASVAスコア）を検討したので報告する。
【対象と方法】対象は、当センター入院の外傷性遷延性意識障害患者94名（男性66名、女性28名、平均年齢37.5才）である。方法はInbody S20（インボディジャパン社製）を用いた。検討項目は、筋肉量、体脂肪量、筋肉量％（＝患者筋肉量／基準筋肉量×100）とした。
【結果】体組成変化は、筋肉量％では男性78.3（3ヶ月）→74.1（6ヶ月）→72.3（12ヶ月）→72.5%（24ヶ月）、女性は以下同様77.6→79.5→76.6→75.0%である。脂肪では男性9.3→9.4→11.4→14.5kg、女性は12.9→16.7→18.1→17.1kgである。入院時NASVAスコアとの関係では、50以上（男女）の群で筋肉量%77.8→75.4→72.5→71.7%、脂肪11.1→12.2→14.0→16.4kg、50未満の群で筋肉量%78.8→75.3→76.6→76.2%、脂肪8.7→8.6→11.9→12.7kgであった。
【考察】体組成の変化は受傷後から筋肉量は減少し、ある一定に収束する可能性が、また脂肪は体重増減により増減すると考えられる。筋肉量を増加させる因子は意識障害の程度と負荷運動と考えられる。